

上川口小学校

「ともに学び高め合い
未来を切り拓く」

児童の育成」

校長 今津 一志

◆はじめに

今年度は9名の新入生を迎え、全校児童57名、教職員13名、6学級（特別支援学級1学級を含む）編制で教育活動に取り組んでいます。

2学期が始まり2週間が経とうとしています。まだまだ日中は厳しい暑さが続いています。夏休みがあげて、校庭のまわりは草が伸び、あたりが緑色に。朝の時間10分

間ほど全校で草引きをしています。額に汗をしながら

労をいとわず草を引いている子どもたちをたくましく

思います。

一人ひとりのよさや可能性を育んでいくことへの思いをいっそうを強くしています。



◆学校教育目標に向けて

「ともに学び高め合い未来を切り拓く児童の育成」

（協働と創造）を学校目標に掲げ、授業を通して子どもたちの力・学力を伸ばすことができるよう教職員が力を結集し教育実践に努めています。子どもたちや保護者・地域の皆さんの期待に応え、信頼関係を高めていきたいと思っています。

▽私たちの指導力向上に向けて子どもたちの可能性を広げていくことができるよう、基礎的・基本的内容を身に付け、考え判断し伝える力（思考力・判断力・表現力など）や、問題を解決する力を育み、一人ひとりの自己実現につなげていくことが求められます。1年生から6年生へと学びを積み上げていくことができるよう、互いに授業を見合い、指導力の向上につなげていきます。あわせて、問題解決へ向かう意欲や粘り強く取り組んだり協力したりする姿勢、コミュニケーション能力

力など、思いや姿勢・態度を大切に育んでまいります。▽学びに向かう姿勢

授業において学習に向かう姿勢の基本は「聞く」ことだと思っています。姿勢を正して話し手の方を見て聞く。話し手の意図を考えながらやさしく聞く。全校で大切にに取り組んでいます。

▽見つけパワーアップタイム

掃除班のメンバー（1年生から6年生）の異年齢の8人ほどが集まって15分間自主学習（見つけ勉強）に取り組めます。上級生の取り組み内容を

に目を通し、下級生に声をかけたり教えたりあげたりする姿が見られます。短い時間ですが教室がシーンと静まり、全員が集中して取り組んでいます。いっしょに学習することのよさを感じられるとともに、家庭

学習の習慣化とレベルアップにつなげていきたいと考えています。

◆活動に向かう意欲となる自己有用感・自身への期待を

めざす自分やなりたい自分に向けての夢や希望をもつことや、そうしたことに向かって取り組んでいく原動力となるものは、自分自身をかけたがえのないものと思うことや自己有用感を感じられることが大きな力となります。また、自己有用感にかかわっては子ども自身価値や可能性に気づき、自立に向けて進んでいくことができるようになるにつれていくことが大切です。日々の授業、活動の中で一人ひとりを見つめ、声かけ、評価・励ましを継続しています。

▽子どもたちが主体となつて価値ある行動を全校に

児童会が中心となつて、あいさつ運動やげた箱キラリ週間、ロツカーピカピカ週間に取り組んでいます。校内にその週の取組を掲示

し、翌週の朝会で子どもたちのがんばりを発表しています。また、放送委員会が学習の準備に向けて、机の上準備習慣に取り組んでいます。

朝、「おはようございます」と元気な声が聞こえてきます。上川口のよき校風としていきたいものです。

▽なかよし朝会

毎週木曜日、児童会が中心となつて全校児童が参加できる遊びや活動（鬼ごっこ、ドッジボール、じゃんけんゲームなど）を考え、朝会時に実施しています。子どもたちの歓声が響き笑顔が広がります。

◆おわりに

猛暑日・酷暑日という言葉も聞かれ、記録的な暑さとなった今年の夏。2学期が始まってからは雨の日が続く、全国的には記録的豪雨に見舞われるところも。休み時間になると校庭に飛び出しかけまわって遊んでいる子どもたち。

一人ひとりの未来に向け、保護者や地域の皆さんと手を携え、職員一同取組を進めてまいります。

一人ひとりの未来に向け、保護者や地域の皆さんと手を携え、職員一同取組を進めてまいります。

佐賀小学校 佐賀中学校 「人間を大事に」

校長 清水 幸賢

◆はじめに

今年度、佐賀小学校では、6名の新入生を迎え、全校児童62名、教職員17名で教育活動に取り組んでいます。また、佐賀中学校でも、6名の新入生を迎え、全校生徒30名、教職員17名で教育活動に取り組んでいます。佐賀小学校と佐賀中学校では、一昨年度から小中一貫教育を推進し、日頃の学習や学校行事など多様な場面で連携・接続を大切にしています。

◆学校教育目標

「人間を大事に」自他ともに大切にすることができ「る」を教育目標に掲げ、人権や思いやりの心を大切にする取組が続いています。日々さまざまな出来事が起こる中で、「真に人間を大事にするとはどういうことか」を、児童生徒と教職員がともに考えながら、歩みを進めています。

◆めざす児童生徒像

- ▽学ぶ意欲をもち、自ら考え、主体的に判断し、行動できる児童生徒
- ▽自他の違いを認め、自他ともに大切にできる児童生徒
- ▽ふるさとを愛し、ふるさとを誇りに思い、ふるさとに貢献する児童生徒
- ▽困難に負けず、最後までやり抜く児童生徒

◆初めての小中合同運動会

5月23日、小学校と中学校で初の合同運動会を実施しました。



スローガンは「小中 赤白全力でぶつかろう!」。小学校の代表委員会で発案されたもので、当日はこのスローガンのもと小学生も中学生も全力の姿が溢れました。

合同練習を重ねる中で、中学生は小学生の発達の段階に配慮しながら、優しく丁寧な言葉かけや教え方の工夫を見せてくれました。そんな頼もしい中学生の後ろ姿に刺激を受け、小学生も大きな声で応援し、立ち

振る舞いまでたくましく成長していました。

当日は、互いの競技を熱く応援し合ったり、全員で力を合わせたりと、笑顔と活気にあふれた感動的な一日となりました。地域や保護者の皆さんの温かいご声援が、子どもたちの大きな力となりました。

互いの競技を熱く応援し合ったり、全員で力を合わせたりと、



◆小中合同児童会・生徒会執行部会

小学校児童会と中学校生徒会が初めての合同での執行部会を開催しました。児童会役員と生徒会役員が互いの学校生活の様子や課題を出し合い、取組を共有する中でたどり着



いたのが「時間を守る」でした。小・中ともに「ベル着授業のチャイム、時間には着席しておくこと」の取組を進めています。児童会も生徒会も、自分たちの学校をもっと良くしていきたいという熱い思いを持って取り組んでくれています。

◆世界と地域をつなぐ英語教育の推進

本年度、本校は文部科学省および高知県からの指定を受け、英語教育のさらなる推進に力を入れています。

小学校中学年以上の英語授業では、中学校の英語教員が小学校に出向く「乗り入れ指導」を行い、学級担任とともに指導にあたることで、小・中の円滑な学習接続と質の高い授業展開を実現しています。さらに文部科学省の指定事業として、通常の英語授業に加え、実践的なコミュニケーション



能力の育成に特化した活動も実施しています。

単なる言語の習得にとどまらず、地域の魅力や文化を英語で発信できる表現力を養うとともに、英語を「世界と地域、そして自分自身をつなぐ架け橋」と位置づけ、多様な文化に触れて視野を広げる豊かな人材の育成をめざしています。

◆おわりに

佐賀小学校・佐賀中学校は、今後も地域とともにある学校でありたいと考えています。先日の学校運営協議会においても、学校・保護者・地域がチームとなり、特に「安心・安全な学校」「交流(地域・学校間、異学年)」「あいさつ」の3点に重きを置くことが協議・確認されました。

今後も児童生徒と教職員が一丸となつて地域に根ざした教育活動に取り組んでまいります。地域の皆さんにおかれましては、今後とも変わらぬ温かいご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。